

12/2 朝日

医療費の負担増も「自助」なのか

無職

(埼玉県 67)

昨年5月、母が90歳で他界しました。生前、持病の治療で通院するたびに医療費の自己負担1割のありがたさをしみじみ語っていたことを思い出します。病気になった時、けがをした時、少ない自己負担で診察・治療してもらえるのは本当にありがたいことです。国民皆保険は日本が世界に誇りいい仕組みだと思います。

現在75歳以上の高齢者の医療費窓口負担は1割で、現役並みの所得者が例外的に3割負担です。政府は2022年度から一定以上の所得の人への負担を1割から2割に引き上げよ

うとしたのですが、これには違和感があります。高齢者はどうしても医療機関にかかる機会が多くなるので、2割負担は厳しい政策です。日本の政府のお金の使い道に疑問を抱いています。例えば、米国製武器を爆買したり、沖縄・辺野古の埋め立て工事に巨費を投じたり、新型コロナ対策のための持続化給付金で過大な委託料を支払ったり——こんなことに私たちには高い税金を払っているわけではありません。今回の政府の方針は、安易に国民に負担を押しつけていると感じます。これも「自助」の一つなのでしょうか。